

平成25年11月@日

内閣総理大臣安倍晋三様
文部科学大臣下村博文様
東京都知事猪瀬直樹様
独立行政法人日本スポーツ振興センター
理事長河野一郎様

神宮外苑と国立競技場を未来へ手わたす会

共同代表:大橋智子・大橋智子建築事務所

上村千寿子・景観と住環境を考える全国ネットワーク

清水伸子・景観と住環境を考える全国ネットワーク

多田君枝・「コンフォルト」編集長

多児貞子・たてもの応援団

日置圭子・地域文化企画コーディネーター・粋まち代表

森 桜・アートコーディネーター・森オフィス代表

森まゆみ・作家・谷根千工房

山本玲子・全国町並み保存連盟

吉見千晶・住宅遺産トラスト

神宮外苑の風致・景観と新国立競技場の建設再考のお願いについて

秋も深まり、貴台におかれましてはますますご清祥のことと存じ上げます。

さて2020年のオリンピック・パラリンピックの会場として新国立競技場の建設が建築家や建築・都市計画の研究者に広範な論議をよんでおります。

私達は市民の立場から、国際平和と地球の未来に寄与するオリンピックの開催を心から願うとともに、税金をもって建設される国立の競技場について質問と意見を申し上げます。

当該地・明治神宮外苑(新宿区霞ヶ丘町一番一号)は都心の風光明媚なところで、明治神宮、新宿御苑にも近く、赤坂御所に隣接し、都の風致地区第一号に指定されております。

大正6年、青山練兵場跡地に明治天皇の業績を残すため神宮外苑は造営され、陸上競技場、水泳場、相撲場などが作られ、わが国のスポーツ発展の牽引力となってきました。明治神宮体育大会(現在の国体)、六大学野球、開かれなかった1940年のオリンピック、1943年出陣学徒壮行会、一時米軍に接收された国立競技場、戦後の復興、自転車練習場、1964年の東京オリンピックなど、たくさんの歴史と悲喜こもごものエピソードが埋め込まれ、それは都民・国民の個々人のかけがえのない記憶ともつながっています。

また維新以降の明治史を著名な画家が描いた聖徳記念絵画館(重要文化財)を正面にする銀杏並木は、東京で最も美しい並木道として都民の憩いの場となっております。

この景観と歴史の痕跡はけっして壊してはならないものです。

しかし昨2012年の日本スポーツ振興センターのコンクールで最優秀とされた案にはさまざまな問題点を指摘せざるを得ません。

そこで以下、7項目について、ご回答をどうぞよろしくお願いいたします。

- 1、風致地区のそれまでの15メートルという高さ規制を逸脱した75メートルのものであること。都の都市計画審議会は、この規制緩和を市民に開かれたなかで十分論議を尽くしたのでしょうか？
- 2、現在都民に愛されている千駄ヶ谷駅前、東京体育館に隣接して巨大なボリュームを持つこと。十分な敷地もないため狭隘感、威圧感を与えるのではないのでしょうか？
- 3、最優秀案は1300億円というコンクールで与えられた条件をクリアしていません。「1964年の東京オリンピックの遺産を活用しコンパクトな五輪を目指す」という公約と矛盾しないのでしょうか？
- 4、現在の都営霞ヶ丘住宅に住んでいる住民を追い出す計画であること。オリンピックのために、普通の市民の生活が脅かされるのは困ります。
- 5、東日本大震災の復興と福島原発事故収束が目下の国の最優先課題であることは言うを待ちませんが、建築資材、職人の払底のなかで巨大新競技場建設はその阻害要因にならないのでしょうか？
- 6、8万人収容のスタジアムがオリンピック後、どのくらい有効活用されるのか、見通しがあきらかでないこと。日本および東京の人口が縮小に向かう今日、建物の運営やメンテナンスを含め、未来世代への巨大なツケにならないのでしょうか？ランニングコストの試算があれば、お示し願いたいと思います。
- 7、また日本スポーツ振興センターは、2010年度に現在の国立競技場を補強・改修して使い続けることを検討し、久米設計に調査を委託したところ、700億円という試算が出たと報道されています。この内容の公開をぜひともお願いいたします。

都民・国民である私達は、神宮外苑と国立競技場を未来へ手わたすために

「1964年の競技場を改修・リデザインして、風致地区とその景観を守るとともに、日本のほこる『もったいない』という物を大事にする美風、江戸からのリサイクル・リユースの伝統を世界にアピールする、環境にローインパクトな国立競技場計画」を要望します。

そのほうが「過去の未来主義の産物」と海外で論評されるような当選案の実現よりも、はるかに「クール・ジャパン(日本てなんてカッコいい!）」といわれるものになると思われます。住宅と同様、設計者が施主の予算を遥かに超えるプランを出した場合は、それが実現しないとしても責められるいわれはありません。

現競技場に、仮設スタンドなどを加え、職人の手技をつたえる聖火台も残し、美しく改修して再利用することで、大幅なコストダウンはもちろん、東京で2度めの五輪を開催することのメッセージを世界にスマートに打ち出せるのではないかと思います。いみじくもコンクールの審査委員長安藤忠雄氏がいわれたように、競技場は広く市民の論議をふまえ、みんなに愛され、オリンピック後も活用されるものでなければなりません。関係各位のオリンピック誘致のご努力に敬意を表し、またコンクール開催は民主主義のルールに則ったものであることも承知しておりますが、だからこそ計画は広く市民の論議で磨き上げる必要があると思います。

貴台におかれましては、市民の声に応え、新国立競技場計画をぜひとも再考していただきますようお願い申し上げます。